

(第五類第七號)

(二八)

第四十七回帝國議會
議院

大正十二年勅令第四百二十四號(承諾ヲ求ムル件)(手形割引損失補償ノ件)

(大正十二年勅令第四百七十一號(承諾ヲ求ムル件)(株主名簿ヲ喪失セル會社ノ件)(貴族院送付))
(大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付))

委員會議錄(速記)第四回

會議

大正十二年十二月二十日午前十一時四分開議

出席委員左ノ如シ

委員長指田 義雄君

理事土居 通憲君

秋本 喜七君

米澤 與三次君

山邊 常重君

渡邊 昭君

今二十日委員成田榮信君辭任ニ付其ノ補闕トシテ

大正十二年勅令第四百七十一號(承諾ヲ求ムル件)(株主名簿ヲ喪失セル會社ノ件)(貴族院送付)及大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)ノ審査ヲ執レモ本委員ニ付託セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 平沼騏一郎君

出席政府委員左ノ如シ

司法次官 山内確三郎君

司法省民事局長 池田寅二郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

大正十二年勅令第四百七十一號(承諾ヲ求ムル件)(株主名簿ヲ喪失セル會社ノ件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

大正十二年勅令第四百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

件(法人ノ破産宣告ニ關スル件)(貴族院送付)

○指田委員長 開會致シマス、此委員會ニ新ニ付託サレマシタ大正十二年勅令第四百七十一號同四百七十五號、此兩案併セテ特別委員會ヲ開キマス、政府ヨリ提案ノ趣旨ヲ御説明ヲ望ミマス

○平沼國務大臣 兩案承諾ヲ求メマスル理由ヲ大體申上ゲマス、先ヅ勅令第四百七十一號ニ付テ申シマス、御承知ノ如ク丁度十一月十二月ノ頃ハ株式會社合資會社ニ於キマシテ總會ヲ招集致サナケレバナラヌ時期デゴザイマシタ、然ル所今回ノ震災ニ依リマシテ多數ノ會社ニ於キマシテ株主名簿ヲ燒失致シマシテ、記名株主ノ誰デアルカト云フコトヲ確知スルコトノ出來ナイ狀態ニ相成リマシタ會社ガ多數デゴザイマス、斯ノ如キ會社ニ於キマシテハ商法其他ノ法令ノ規定ニ依リマシテ記名株主ニ一々通知ヲ發シマシテ總會ノ招集ヲスルト云フコトガ、ドウシテモ出來ナイ狀態ニアルノデアリマス、是ガ爲ニ特別ノ方法ヲ設ケマシテ總會招集ノ出來ル方法ヲ講ジナケレバナラヌ必要ニ迫ッタノデゴザイマス、之ニ依リマシテ其株式式ト來記名式ノ株式デアリマスルモノヲ無記名株式ト見マシテ、即チ總會招集ニ關スル規定ノ適用ニ付キマシテハ無記名ノモノト看做シマシテ、公告ノ方法ニ依リマシテ招集ガ出來ル、即チ各別ニ株主ニ通知ヲ發シマセヌデ公告ノ方法ニ依リマシテ招集ノ出來ルト云フ便法ヲ茲ニ設ケマシテ、サウシ

テ株主總會ヲ招集スルコトノ出來ル特例ヲ定メタノデゴザイマス、此狀態ハドウシテモ勅令案ニ示シテアリマスル通りノ次第デゴザイマシテ、今日直ニ止メルト云フ譯ニハ參リマセヌ、尙ホ其必要ハ今後モ存續スル次第デゴザイマス、之ニ依リマシテ承諾ヲ求メマシタ次第デゴザイマス、ソレカラ勅令第四百七十五號ノ方ハ法人ニ對スル破産宣告ニ關スル件デゴザイマス、是モ御承知ノ通り今回ノ震災ニ依リマシテ有價證券デアリマストカ其他ノ財産ガ非常ニ價格ヲ減少致シマシタ事實ハ明カナコトデアリマス、是ガ爲ニ會社ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコトノ出來ナイ狀態、即チ債務超過ノ狀態ヲ呈シマシタノデゴザイマス、若シ現行ノ法令ヲ嚴格ニ適用致シマスルト、債務超過ノ場合ニハ破産ノ宣告ヲシナケレバナラヌ、又會社ノ取締役デアルトカ、其他法人ノ理事デアルトカ、其他之ニ準ズベキ職務ヲ持ッテ居リマスル者ハ進ンデ破産宣告ノ申請ヲセンケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、然ル所此會社財産ノ價格ガ震災ノ爲ニ減少致シテ居リマスルノデアリマスカラ、多數ノ會社ニ於キマシテハ債務超過ノ狀態ニ陥ッテ居ルモノガ、皆商法ノ規定ニ依リマスルト破産ノ宣告ヲ受ケナケレバナラヌト云フ狀態デア

ル、隨テ取締役理事其他之ニ準ズベキ者ガ皆破産ノ申請ヲセンケレバナラヌト云フ狀態ニナッテ居ルノデアリマス、斯ノ如キコトデアリマシテハ非

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

第五類第七號 大正十二年勅令第四百二十四號委員會議錄第四回 大正十二年十二月二十日

常ニ經濟界ニ混亂ヲ生ズル結果ニ相成ルト考ヘルノデアリマス、而セ此債務超過ノ狀態ト云フモノハ震災ノ結果デゴザイマスルカラシテ、若シ假スニ時日ヲ以テシタナラバ段々平常ニ復シマスル、サウシテ此債務超過ノ狀態ト云フモノハ自然ニ無クナル譯デアリマス、斯ノ如キ場合ニ於キマシテ現行法令ノ規定通りニ一々破産ノ申請ヲサレ、又破産ノ宣告ヲスルト云フコトニナリマシテハ、之ハ經濟界ニ由々敷惡結果ヲ生ズル次第デゴザイマスノデ、此緊急勅令ニ依リマシテ震災ノ結果ニ依ッテ債務超過ノ狀態ニ陷ッタ法人ニ付テハ一定ノ期間破産ノ宣告ハ出來ナイ、斯ウ云フコトニ定メタノデアリマス、是モ尙ホ相當ノ期間、即チ勅令ニ示シテアリマス期間ハ、此效力ヲ有セシムル必要ガアルノデアリマス、之ニ依リマシテ承諾ヲ求メマヌ次第デゴザイマス、宜シク御審議ヲ乞ヒマス

○指田委員長 是カラ質問ヲ許シマス、大道寺君

○大道寺委員 私ハ勅令四百七十五號ノ破産關係ノ規定ニ對シテ一二質疑ヲ致シタイト思フノデアリマスガ、先ヅ第一ノ質疑ハ此勅令ノ末項ニ依リマスト、震災ノ影響ニ因ラスシテ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルコト明ナル法人ニ付テハ之ヲ適用セストアルノデアリマスカラ、無論震災ノ影響ニ因ル場合ノミニ限ラレテ居ルコトハ明カデアルケレドモ、適用スル區域ヲ定メラレテナイノデアリマスカラ、一般ノ法人ニ對シマス破産宣告ヲ一面ニ於テ妨ゲル嫌ヒガアリハセヌカト思フ、總テノ破産事件ニ就テ被申立人側ニ、破産ノ審理上ニ一ノ抗辯權ヲ與フル結果ヲ生ジテ來ルノ

デアリマス、何レノ破産事件ニモ先ヅ以テ其審理中ニ震災ノ影響ニ因ルモノデアるか、因ラナイモノデアるかト云フコトヲ審理スル必要ガ生ジテ來ルノデアル、ソレデアリマスカラ全國ノ裁判所ニ取扱ハレマス所ノ破産事件ノ審査上ニ、一大紛淆ヲ生ジテ參リマシテ、破産ノ審理手續上、其關係スル所ガ甚ダ重大ナ影響ヲ持ツノデアリマス、ソレノミナラズ又一面ニ於テハ震災ニ影響ノナイ破産債權者ノ權利執行上ニモ、一大障害ヲ來ス規定ニナルノデアリマス、今日我國ノ訴訟審理手續ガ長過ギテ困ルト云フ事柄ハ、朝野法曹ハ無論、一般國民モ何トカ訴訟ノ審理手續ヲ早ク解決サレル方法ヲ執リタイト云フコトヲ要望シテ居ル際デアリマスガ、昨年ノ議會ニ於キマシテモ破産法ヲ改正サレテ、區裁判所ノ管轄ニ屬シテ、簡易ナ手續ニスルト云フ事柄ヲ改正法ノ上ニ見ルコトガ出來タノデ、破産法ノ改正ノ結果ヲ吾々ハ非常ニ歡迎シテ居ルノデアリマスガ、此勅令ノ結果ト致シマシテ、是ガ逆戻リヲスルヤウナ意味ニナツテ、破産ノ審理上ニ非常ニ長引ク結果ヲ生ズル、無論破産ノ申立人ト被申立人トノ間ニ於テ、所謂誠意ヲ以テ双方トモ主張シ、而シテ震災ノ影響アルモノトナイモノトヲ綺麗ニ區別シテ、眞實ヲ告白シテ爭ウテ居ル場合ニハ問題ハアリマセヌケレドモ、裁判手續上ニナリマス、被申立人ノ側デハ主張シ得ル抗辯アルトナイト拘ラズ、法律ノ許ス範圍内ニ於テ色々主張ヲスル傾ガアルノデアリマスカラ、被申請側ニ有力ナル一ノ抗辯權ヲ與ヘテ、是ガ爲ニ審理ガ非常ニ長引ク虞ガアル、此勅令ノ出マス

ト同時ニ、全國ノ破産ヲ取扱ヒマス所ノ各裁判所ニ於キマシテ、非常ニ杞憂ヲ感ジテ居ル問題デアル、是ハ無論震災ノ如キ非常ナ場合デアリマスカラ、一面ニ又之ニ伴フ所ノ弊害ハ已ムヲ得ヌト云ヘバソレマデ、アリマスケレドモ、政府ハ之ヲ立法サレル際ニ於テハ、此點ヲ如何ニ考慮サレタノデアリマセウカ、又之ヲ如何爲サル御考デアリマセウカ、此點ヲ先ヅ第一ニ御尋ネ申上ゲマス

○山内政府委員 大道寺君ノ御質問ハ御尤ノ御質問デアリマス、併ナガラ實際ニ於キマシテハ、主ニ東京ノ問題デアリマス、財産、殊ニ有價證券ノ價格ガ震災ノ爲ニ、一時ノコトデアリマスガ相當ニ價格ヲ下落シテ居ル、殊ニ保險會社等ニ於テ起ル問題デアリマス、保險會社ノ——第一流ノ保險會社ト雖モ、財産ノ額ト其債務ノ額ヲ比較スルト、債務ガ超過スルト云フヤウナ狀態ヲ生ジテ居ル、ソコデ商法ノ規定ニ依ッテ、是等ノ會社ハ重役ニ於テ義務トシテ、即チ科料ノ制裁ノ付イタ義務トシテ、破産ノ申請ヲ自ラ爲サナケレバナラヌト云フコトニナツテ居ル、サウ致シマスト是ハ餘程經濟界ニ取ッテハ由々敷大事デアル、勿論支拂停止ノ狀態ニアルモノトハ見ラレナイ會社デアル、一年二年ヲ經過スレバ其財産ノ狀態モ舊ニナルト云フヤウナ會社デ、サウ云フ有様ニ陷ッテ居ルノガ大分アル、是ハ捨テ、置クコトガ出來ヌト云フノガ此案ノ本デアリマス、通常ノ場合ニ就テ考ヘマス、此債務超過ノ爲ニ破産ノ申告ヲスルト云フヤウナ例ハ餘リ多クナイ、法人ノ多クハ——殆ド總テト云フテ宜イカ知ラス、支拂停止ノ狀態ニ陷ッテ居ル、ソレデ債

權者カラ破産ノ申請ヲスル、通常ノ場合ニ於ケル
多クノ事例ヲ見レバ皆支拂停止、新法ノ下ニ於ケ
ル支拂不能、支拂停止ヲ本ニシテ支拂不能ヲ推測
シテノ申請ニナル、サウ云フ譯デアリマスカラ、今
日起テ居ル破産ハ、通常ノ場合ノ破産状態ニ非常
ナ弊害ガアルトハ考ヘテ居ラヌ、唯今日震災ノ影
響トシテ債務超過ノ問題ガ起テ居ル、而モ是ハ立
派ナ會社ニ起テ居ル、之ヲ救ハナケレバナラヌト
云フノガ此案ノ趣旨デアル、併ナガラ此勅令ガ出
マスレバ、果シテ是ガ震災ノ影響ニ因ルモノナル
ヤ否ヤト云フコトハ、詰リ「バランズ」ヲ取テ、財
産ト債務ヲ比較シテ、債務ガ超過シテ居ルト云フ
事實ガ玆ニ現レテ、破産問題ガ假ニ起ルトスル時
ニ、其財産ノ額ガ震災後減少ヲ致シテ居ルカドウ
カト云フコトハ、是ハ調ベナケレバナラヌ、併ナガ
ラ財産ノ額ノ減少ノ問題ハ普通ノ破産ノ問題トハ
違フ、支拂停止ノ問題デハナイノデアリマス、財
産殊ニ有價證券ノ額ガ震災ノ結果下ツタト云フヤ
ウナコトノ調査ハ、支拂停止ノ調査程複雑シナイ
ト考ヘテ居ル、ソレデ是ハ農商務省ニ於テモ適當
ニ既ニ調査ヲシテ居リマス、サウ云フ次第デアリ
マスルカラ從來カラ起リツ、アルヤウナ普通破産
ノ支拂停止ノ原因トスル破産事件ニ妨害ヲ加ヘル
ト云フコトハナカラウト思ヒマス、數モ是等債務
超過ノ破産ノ申請ト云フモノハ俄ニ殖エルトモ考
ヘナイ、所謂此勅令ニ依ッテソレヲ理由トスル申請
ハ餘リ起ラナイト思フ、矢張破産ノ申請ノ争ヒハ
何時モ支拂停止ト云フコトガ基ニナッテ來ルダラ
ウト思フ、財産ノ額ガドレダケ下ツタカト云フコト

ヲ見ルコトハ比較的困難デハナイト考ヘテ居リマ
ス、ソレ故此規定ヲ置クコトニナツタノデアリマ
ス、左様御承知ヲ願ヒマス
○大道寺委員 成程非常ノ場合デスカラ已ムヲ得
ヌ、他ニ多少ノ影響ガアツテモ之ヲ忍バナケレバナ
ラヌト云フコトナラバ已ムヲ得ヌ次第デアリマス
ルガ、震災地ノミデハナクシテ、地方ニ於テモ矢張
此震災地ニ對スル、或ハ會社ナラ會社ノ債務ヲ持
テ居リマス者、又ハ取引上ノ債權ヲ持テ居ル者
ハ、一面ニ於テ其債權ノ取立方法ガナクナレバ結
局財産ガ減少スルノデアリマスカラ、決シテ此震
災地ノミニ局限シタヤウナ意味ニハドウシテモ解
釋ハ出來ヌ、サウ致シマスレバ先程質問致シマシ
タヤウナ杞憂ガ當然生ジテ來ルノデアリマス、併シ
非常ナ災害ニ伴フ所ノ救済ノ一ノ方法デアルカラ、
是ニ伴フ弊害ハ已ムヲ得ヌト云フコトナラバ是ハ
仕方ガナイノデアリマススケレドモ、何トカ適當ナ
御考慮ノアルベキコト、思フノデアリマスガ、ソ
レハ是ダケニ致シテ置キマシテ、モウ一ツ御尋ヲ
致シタイ、第二ノ質疑ハ此勅令ハ法人ニ關スル破
産宣告ダケニ制限サレテ居リマスルガ、何故ニ個
人ニ對シテ同様ノ場合ニ此適用ヲ制限サレタノデ
アリマセウカ、個人ニ對シテ矢張同様ノ關係ガ生
ズルコトハ無論デアリマスガ、何ガ故ニ法人ノミ
ニ限ラレタノカ、此ノ立法ノ趣旨ガ即チ何カ一面
カラ見マストル法人會社ニ厚キ個人ニ薄キ嫌ヒガ
アリハセヌカ、會社ノ破産ノミヲ保護シテ個人ノ
破産ヲ救済スルコトヲシナイ所ノ理由ハ何所ニア
ルノデアリマセウカ、其趣旨ヲ伺ヒタイノデアリ

マス、何ダカ臨時議會ニ出テ居リマス政府カラ出
サレタ保險金貸付方ニ付テモ、會社ト政府トノ關
係、會社法人ノ上ニ關シテノ救済方法ニ關スル勅
令ガ、保險案ニ關シテモ本法ニ關シテモ矢張サウ
云フ趣旨ニ相成ッテ居ル、何ダカ此處マデ申上ゲル
ノハ異多イ話デアリマスガ、震災ニ對シテ下サイ
マシタ、御詔書ノ中ニモ「一會社ノ利益保障ノ爲ニ
多衆災民ノ安固ヲ營スルカ如キアラハ人心動搖シテ
抵止スル所ヲ知ラス」ト云フ有難キ御仰セニナッ
テ居リマス、此御趣旨ニモ何ダカ反スルヤウナ嫌ヒ
アルヤウニ思ハル、ノデアリマスガ、此點ニ對シ
マスル御意見ヲ拜承シタイ

○山内政府委員 是ハ敢テ法人ヲ保護スルト云フ
ヤウナ趣旨デハナイノデアリマス、勿論大道寺君
御承知ノ事ト思ヒマスルガ、民法商法及ビ之ヲ總
括シタ廣イ規定ノ破産法、此中ノ法人ニ對スル破
産條件ハ個人ノ破産條件ト區別ガアルノデアリマ
ス、個人ニ付テ考ヘレバ債務ノ支拂ヲスルコトヲ
得ル得ザルハ其財産ノミヲ以テ見ルノデハナイ、
其信用ト其財産モ勿論デアリマスガ、或ハ其他ノ
力量、總テノ力量ヲ以テ支拂ヲスルコトガ出來ザ
ル場合、即チ二進モ三進モ行カナイト云フ状態ニ
ナッテ初メテ破産ト云フコトガ出來ル、財産ガ足ラ
ヌカラト云フテ直ニ破産ノ宣告ハシナイ、然ルニ法
人中殊ニ株式會社ノ如キ人ヲ本ニセズ物ヲ本ニシ
テ居ル、所謂之ヲ學究的ニ申シマスルト物質デア
リマス、サウ云フ會社ハ勿論實際ノ活動ニハ重役
ノ力モアルコトデアリマス、併ナガラ財産ノ安固
ヲ圖ル、會社ノ財産ノ安固ヲ圖ルト云フコトガ本

ニナツタ株式會社ノ財産ノ保存ト云フコトニハ最も重キヲ置カナケレバナラヌ、サウ云フ次第デアリマスカラ、商法、破産法、民法ニ於テハ法人ニ付テハ特ニ取除イテ居リマスガ、其財産ト債務トヲ比較シテ債務ガ超過シタ場合、此場合ニハ財産ノ宣告ハ法人ニ限ッテ出來ルト云フコトニナツテ、一般人ニ付テハ是ダケデ破産ハ許サナイ、ソコデ法人ト雖モ一般人ト雖モ所謂支拂停止、支拂不能ノ場合ニ破産ノ宣告ヲスルノハ同様デアリマス、法人ニ付テ特定サレタル所ノ此破産標準ト云フモノガ、震災ノ爲ニ非常ニ危険ナコトニナツテ居ルト云フ譯デアリマスカラ、法人ノミニ付テ此特殊ノ破産條件ヲ緩和スルト云フノガ此趣旨デアリマス、一個人ニ付テハ全ク關係ノナイコトデアリマスガ故ニ法人ノミヲ保護スルト云フヤウナコトハ毛頭此案ノ中ニ入ッテ居ナイ、又入ルベカラザル事デアリマス

○渡邊委員 本員モ此勅令第四百七十五號ノ破産ニ關スル規定ニ付テ質問致シマス、第一ニ此勅令ノ第一項ト第三項ノ適用ニ付テハ同ジ行爲デハアルマイト考ヘマスノデ、相違ガアレバ其相違ノ點ヲ伺ヒタイノデアリマス、此勅令ハ震災ノ影響ニ因ッテ法人ガ法人財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルコトガ出來ナイ場合ニ限ッテ破産ノ宣告ヲスルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ規定ガ此勅令ニ依ル精神トナツテ居ルヤウニ考ヘマス、サウスルト此第一項ニ於テ大正十二年九月一日以後ニ於テ法人ノ財産ヲ以テ云々ト云フ條項ハ、勿論此震災ノ影響ヲ受ケテ法人財産ヲ以テ云々ト云フコトニ係ハルモノト思ヒマス、

サウシテ其但書ニ於テ「其ノ法人ガ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ハ此ノ限ニ在ラス」ト云フコトハ、震災ノ影響如何ニ拘ラズ其法人會社ガ法人ノ財産ヲ以テ債務ヲ辨済スルコトガ出來ナイ、所謂震災ノ影響ニ依ラザル場合、斯ウ云フ解釋ニ致シテ宜イト思ヒマスガ、サウ致シマス此第三項ノ「及」以下ノ規定ト重複スルヤウニ考ヘマスガ、此適用ニ付テ司法當局ノ御意見ヲ承リタイ

○山内政府委員 是ハ文字ノ上カニ其疑ノ出ルノハ御尤デアリマス、貴族院ニ於テモ質問ハナカッタケレドモ私ハ其事ヲ申上ゲテ置キマシタ、併ナガラ是ハ商法、破産法等ニ用例ノ定マッタ文字ヲ使ッテ居リマスカラ、自ラ其疑ハ解釋上ニハ起ラナイコトニ考ヘテ居リマス、三項ノ中ニ「債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リ」ト書イテ、第一項ノ但書ニ「支拂ヲ爲スコト能ハサル場合」トアル、是ハ全ク意味ガ違フノデアリマス、第一項ノ本文ハ前ニ私カラ説明致シマシタ通りニ、會社財産ヲ以テ、會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハズ、即チ債務超過デアアル、支拂能力如何ノ問題デナクシテ會社財産ノ不足デアアル、支拂能力アリトシテモ債務ガ財産ヲ超過シタ場合ニ破産ヲ宣告スルコトハシナイト云フノデアリマス、一項ノ但書ハ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ、同時ニソレガ支拂能力ヲ缺イテ居ル、財産ノミナラズ——財産ヲ以テ支拂ヲ爲スコト能ハズト云フノデハナイ、總テノ——私ガ前ニ申シタ力量ヲ以テスルモ出來ナイ、信用ハ杜絶シテ金ヲ借りテ來テ拂フコトモ出來ナイ、持ッテ居ル財産ノ換貨モ出來ナイト云フヤ

ウナ狀態デ、ドウシテモ債務ノ支拂ガ出來ナイト云フノガ即チ支拂不能、舊法ノ下ノ所謂支拂停止デアリマス、斯ウ云フモノニ付テハ本文ヲ適用セズシテ但書ニ依ッテ破産宣告ヲスルト云フコトニナツテ居ル、ソコデ第三項ニ「債務ヲ完済スルコト能ハサル」ト云フ文字ダケヲ用ヒテ居ルノハ、第一項ノ所謂「法人ノ財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル」ト云フ文字ヲ承ケテ居ル、而シテ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコトガ出來ナイ、即チ債務超過デアアル、斯ウ云フ會社ハ第一項ニ依レバ破産ノ宣告ヲシナイノデアリマス、併ナガラ震災ノ影響ニ因ラズシテ其財産ノ價格ヲ減少シテ債務超過ニ陥ッテ居ルモノガアル、其モノハ矢張破産ノ宣告ヲスルト云フコトニナツテ居ル、即チ第一項ノ除外例デアリマス、第一項ニ付テハ支拂停止ノモノガ一つノ除外例、債務超過ノ原因ガ震災ニ基カザルト云フノガ第二ノ除外例、除外例ヲ兩方ニ書分ケタノデアリマス、文字トシテハ私モ奇妙ニ感ジマシタガ、既ニ破産法、商法、皆此文字ヲ用ヒ來ッテ居ルノデアリマスカラ疑ヒハナカラウト考ヘテ居リマス

○渡邊委員 只今ノ御答ニ依ッテ了解シマシタガ、勅令第四百七十一號ニ付テ一寸伺ヒタイ、此勅令ハ記名株式ニ對シテ無記名ノ株式ノ法規ヲ適用スルト云フ大體ノ御趣意デ、勿論定時總會、臨時總會等ノ場合ニ於テモ同様此勅令ヲ適用サレルコトト信ジマスガ、株主名簿ヲ喪失シタト云フコトハ、ドウ云フ方法ニ依リマシテ喪失ノ事實ヲ御確メニナルノデアリマスガ、或ハ會社ガ自分ノ會社ノ株

主名簿ハ今回ノ震災ニ依ッテ喪失シタノデアルト云フ申告ニ依ッテ御認ニナルヤウナ手續ニナルノデアリマス、或ハ又其他ノ何カ御取締等ニ依ッテ、事實ヲ御認ニナル手續デモアルノデアリマスカ、ソレガ一ツ、第二ニソレニ關聯致シマシテ、株主名簿ハ喪失シタケレドモ、此株主名簿ナルモノハ其原本ハゴザイマスマイガ、原本ニアラザルモノハ各官廳ニ於テソレト居出ニ依リマシテ、或ハ考課狀トカ、株主名簿トカ云フモノガ監督官廳ニ於テ、各會社カラ提出サレテ居ルコト、存ジマスカ、サウ云フモノニ依ッテ明ニ株式ノ持主ハ誰デアルト云フ事ガ明確ニナル場合デモ、矢張此勅令ヲ適用シテ、公告ノミニ依ッテ總會ノ手續ヲスレバ宜イド云フコトデアリマスカ、ツマリ記名株主ヲ明ニ知ルコトガ出來ル方法ノアル場合ニ於テモ、尙ホ此勅令ヲ適用サレルト云フ趣旨デアリマセウカ、伺ヒタイ

○山内府委員 株主總會ノ招集ノ事ニ付テ、裁判所或ハ其他ノ官廳ニ於テ監督ヲシ指揮シテ行クト云フコトニハナッテ居ナイノデアリマス、株式會社自治權ノ下ニ於テ總會ヲ開クノデアリマス、其總會ヲ開クニ付テ、前ニ大臣カラ云ハレタ通り會社ノ方デハ總會ヲ招集スル途ニ困難ヲ感ジテ居ル、ソコデ株主總會ヲ開キ得ル途ヲ茲ニ講ズルト云フコトニナッテ居ル、然ルニ若シ株主名簿ヲ喪失シタ會社ノ株主名簿ノ寫シガ他ニアルトカ、或ハ又其他ノ方法デ以テ株式ノ名義人ヲ確知スルコトガ出來ル場合、其場合ニハ此法文ノ所ス通りニ株式ノ名義人ヲ確知スルコト能ハザル場合デハナク、斯

ウ云フ事ニ解釋シナケレバナラヌダラウト思ヒマス、況ンヤ總テノ會社ニ於テ此震災後株主名簿ヲ喪失シタモノハ諸般ノ手段ヲ講ジテ以テ其株式ノ名義人ヲ調査シツ、アル、萬已ムヲ得ザル場合ニ此特例ノ手續ニ出ルコトデアラウト考ヘマス、而シテ又會社ガ其旨ヲ公告シタ場合ニ、此公告ヲ見テ株主ガ俺ガ株券ヲ持ッテ居ルノダト云フ會社ニ提出スルト云フコトニナレバ、是亦確知スルコトガ出來ナイト云フ事デハナイ、サウ云フ方法デ結局成ルベク株主ノ名義ヲ分ルヤウニスル方法ノ一ツガ此公告ト云フコトニナル、サウ云フ次第デアリマスカ、若シサウ云フ諸般ノ方法ニ依ッテ名義人確知ノ出來ル場合ニ於テハ、是ハ無記名株トシテハ取扱ハナイ、斯ウ云フコトニナリマス、併ナガラ會社ガ何處ニモ株券ガ誰ノモノデアルト云フ事ガ分ル方法ガナイト信ジテ、主觀的ニ確知不能ト信ジテ公告ヲシタ、サウシテ無記名式ノ扱ヒノ下ニ株主總會ヲ招集シ議決シタ、其決議ノ效力如何ト云フコトガ若シ裁判所等ニ於テ爭ヒニナル時ニハ、私ハ主觀的不能ノ下ニ此勅令ニ依ッテ爲シタル手續ハ有效ダト考ヘマス、併ナガラ會社ノ方ハ、寧ろ此手續ニ依ルヨリハ、出來ルダケノ事ハ調査スルト云フコトガ、私ハ多イダラウト考ヘテ居リマス

○指田委員長 私人一寸御尋シテ置キタイ、勅令四百七十五號ノ方デアリマス、先刻大道寺君ノ御質問デ私一寸疑惑ヲ生ジタノデスカ、震災ノ影響ニ因ラズシテ債務ヲ完済スルコト能ハザル時ニハ法人ニ付テ適用シナイト云フコトハ、政府委員ノ

御説明デハ此勅令ノ適用ガ多ク此震災地ノ法人ニ對シテ行ハル、モノ、ヤウナ、無論サウ局限ハセラレナイガサウ云フヤウナ立場カラ觀察サレタヤウニ聞ヘタノデ、其點ニ私ハ疑ヲ生ジタノデアリマス、法人ノ債務完済不能ノ狀態ガ果シテ震災ノ影響ニ因ルカ因ラヌカト云フコトノ判斷ハ無論紛糾シ易イ、爭ヲ生ジ易イ餘地ノアル狀態ダラウト思フ、例ヘバ震災地以外ノ法人、以外ニ在ル法人ガ震災地ノ諸賣入ト取引ヲシテ居タ、結果債務ガ完済不能ニ陥ル場合モ無論アル、多クノ場合ハ、今度ノ震災地デ例ヘバ三越デアルトカ、白木デアルトカ、商品ノ焼失シタ關係ハ主トシテ生産地ガ其損害ヲ負擔シテ居ル、重ニ委託販賣ヲシテ居ルノデ、三越白木等ガ直接被ル損害ハ割合ニ少クテ、寧ろ生産地ノ委託シテ居リマシタ荷主ノ損害ガ多クカッタト云フコトニ聞イテ居ルノデアリマスガ、此肝腎ナ——震災地ニ營業所ヲ持ッテ居ル法人デアルトカ云フコトヲ以テ局限スルト云フト、極メテ其判斷ニ迷ハヌヤウデアリマスガ、之ヲ震災地ヲ相手ニ爲シタ取引狀態ニ考ヘテ見マス、是ガ果シテ震災ノ影響ニ依ッテ債務ヲ完済スルコトガ出來ナカッタモノカドウカト云フコトニナルト、例ヘバ此特別委員會デ昨日マデ審議致シテ居リマシタ手形ノ損失補償ノ問題ナドハ、特ニ震災地ト云フコトデ此法律ヲ適用セラルベキ場所ヲ定メテ、震災地ヲ支拂地トスル手形カ、若クハ震災地ニ營業所ヲ有シテ居タ者ノ手形トカ云フ、之ニ付テハ爭ガ起ッテ來ナイモノデアルカ、廣イ意味ノ震災ノ影響ト云フコトノ實際ノ判斷ノ上ニハ随分色ミナ述

ヲ生ジテ來ルヤウニ思ハレマスガ、希クハ此際將來ノ爭ヲ防グガ爲ニハッキリ之ニ付テ政府當局ノ御意見ヲ聞カシテ置イテ裁イタ方ガ、ハッキリ御話ヲ伺テ置イタ方ガ宜クハナカラウカト思フテ居リマス

○山内政府委員 最モ幼稚ナ常識デ多クノ事件ハ東京ニアルダラウト云フコトヲ私ガ申上ダタケノ話デアリマスガ、震災ニ因テ財産ノ價值ニ影響スル場合、或ハ財産ヲ失フ場合ハ總テ東京ニ營業所ヲ持テ居ル營業者ニ限ルト云フコトハ勿論言フベカラザルコトデアアル、東京以外ノ營業者デ東京ニ財産ヲ持テ居ル、或ハ他人ニ委託シテ居ル、或ハ東京ノ例ヘバ燒ケタ會社ノ株券ヲ持テ居ルトカ云フヤウナ者ガ、此震災ノ結果財産減少ヲ來スト云フコトハ是ハ勿論ノ話デアアル、併ナガラ震災ノ爲ニ財産ガ減少シタト云フコトハ比較的調査ハ困難デハナカラウカ知ラント思フ、併ナガラ是ハ思フダケデアリマスガ、此立法ノ立前ハ第一項ニ掲ゲテアル時期ニ於テ債務超過ノ狀態ニアル法人ニ對シテハ破産ノ宣告ヲシナイ、スルコトガ出來ナイト云フコトガ本ニナッテ居ル、而シテ震災ノ影響ニ因ラズシテ債務超過ニナッタト云フコトハ之ヲ主張スル者ガ立證シナケレバナラス、ソレデ是ガ非常ニ立證困難ニナレバ原則ニ立戻ッテ破産ノ宣告ヲシナイ、斯ウ云フコトニナルダラウト思フ、併ナガラ此爲ニ爭ガ生ジテ之ヲ調査スルト云フコトニ付テ、普通ノ場合ヨリハ困難ナ問題ガ起ルト云フコトハ私ハ認メル、是ハ結局其困難ハ裁判所ニ於テ調査スルニ努力スルヨリ仕方ガナイ、

其問題ガ起ルガ爲ニ破産ノ宣告ヲ通常ノ立法ノ下ニ於テ債務超過ノ者ニハ例外ナク破産ノ宣告ヲスルト云フモノハ忍ブベカラザルコトデアリマスカラ、困難ヲ忍ビサウシテ勅令ヲ適用スルコトニ努メナケレバナラスノト云フ考デ居ルノデアリマス

○指田委員長 尙ホ伺テ見タイ、ソレデハ今度ハ債務超過ト云フ方カラ一ツ伺テ見タイと思フ、例ヘバ法人ガ今指摘シタヤウナ有價證券ヲ持テ居リ、此震災ノ際ニ於ケル有價證券ノ取引市場ト云フモノガ其機能ヲ十分ニ發揮シナカッタ、又政府ノ施設其他ノ關係ガマダ不明デアルガ爲ニ、一時的ノ現象トシテ有價證券ノ價格モ低落シタ、斯様ナモノガ此勅令デ想像サレタ即チ大正十四年八月三十一日ニナレバ安定ヲシテ原狀ニ復スルダラウト云フコトデ、此期間ヲ定メラレタモノデアラウト考ヘラレルノデアリマスガ、此大正十四年八月三十一日以前ニ財産ノ價格ヲ評定スルト云フ時ハ、假令其原因ガドウ云フ原因デアリ、一時的ノ現象デアッテモ、矢張株式——有價證券デアレバ株式市場ノ公定値段ト云フモノヲ標準トシテ財産ヲ評定セラル、ト云フ趣意カラ出ルノデアリマセウガ、財産ノ評價ト云フコトハ見ヤウニ依ッテ色々別ニナルノデアリマス、大正十四年ニナラナクテモ價格ハ保ッテ居ルト信ズル人モアルシ、又サウデナイコトモ起ッテ來ルト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ事ニ付テ裁判所ニ面倒ナ問題ガ生ズルト云フ時ハ、特ニ有價證券ヲ持テ居ル法人ノ側ニ於テノ時價ヲ標準トセラル、カ、或ハ又別ナ評價スル

方法デモアルデセウカ、念ノ爲ニ伺テ見タイと思ヒマス

○山内政府委員 是ハ債務超過ノ場合ニモ破産ノ宣告ヲシナイト云フコトニナルノデアリマスカラ、債務ガ超過シタルヤ否ヤト云フコトニ付テ、此勅令ノ適用ノ範圍内ニ於テハ裁判所ニ爭ノ起ルコトハナカラウト思フ、當事者ガ破産ノ申請ノ立證ヲシナケレバナラスト思ヒマスカラ、裁判所ノ評價ト云フコトハ裁判所デハ問題トナラナイト考ヘテ居リマス、併ナガラ第三項トノ關係デアリマスガ、此分ハ詰リ當事者ガ立證スルト云フコトニナルノデアリマスカラ、其問題ニ付テ商法ノ規定中財産目錄ヲ作り、或ハ財産ノ評價ヲスル、破産ノ場合ニ於テ財産ノ目錄ヲ作り財産ノ評價ヲスルト云フコトハ、商法ノ趣旨ニ於テハ所謂時價ニ依リ主觀的ノ價格デナクテ、所謂客觀的ノ價格ニ依ッテ評價スルコトガ本則ニナッテ居リマス、其評價ガ問題ニナル時ニハ矢張時價ニ依ッテ定メル、斯ウ云フコトニナラナケレバナラスト考ヘテ居リマス、併ナガラ取引ノ實際上ノ細カイコトニナリマスルト、頗ル幼稚ナ常識モ持マセヌノデ、商法ノ正面ノ問題カラ解釋シテ時價ニ依ルト申上ゲルヨリ仕方ガナイ

○指田委員長 ソコデ私ノ問ガ起ッタノデアリマスガ、時價ニ依ル其時價ガ震災ノ影響デ取引市場ノ機能が十分ニ發揮セラレナイ、取引ノ「バランス」ガ取レナイ、斯ウ云フコトガ多クノ事態ダラウト思フ、ソコデサウ云フモノハ所謂震災ノ影響ニ因ッテ債務超過ノ狀態ニナッタモノト認メラレルト

云フコトガ、即チ一時的ノ財産ノ評價價格ガ震災ノ影響ニ因テ一時的ニ其價格ガ暴落シタ、是ハ震災ノ影響デアル、斯ウ云フコトニナルト隨分適用サレル事ガ廣クナルノデナカラウカト思ヒマス、震災ノ影響ニ因ルカ因ラナイカト云フコトノ判斷ガ、單リ震災地タケヲ考ヘラレテ居ルト、モウ少シ範圍ガ廣クナッテ、震災ノ影響ヲ持ッテ居ル有價證券ノ價格ガ一時的ニ下落シテ、ソレデ債務超過ノ状態ニナッテ、斯ウ云フコトヲ想像シテ見ルト、其適用サレル範圍ガ廣クナル、隨テ震災ノ影響ニ因タカドウカト云フコトニ付テノ争ガ多クナリハシナイカト思ヒマス

○山内政府委員 取引所ノ機關ガ一時停止シテ「バランス」ガ取レナイ、斯ウ云フ場合ニハ、而シテ其爲メ財産ノ評價ヲ得ルコトガ出來ナイ場合ハ、果シテ會社ノ財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハズト云フコトガ明カナリヤ否ヤ問題ダラウト思ヒマス、第三項ノ規定ハ「バランス」ハ取レテ、債務ガ超過シテ居ルト云フコトガ此ニアッテ、而シテ其原因ガ震災ニ因ラズト云フコトニナッテ場合ニ初メテ破産ノ宣告ノ問題ガ起ル、一時財産ノ「バランス」ガ取レナイ、評價ガ出來ナイト云フ意味デノ御尋デアッタナラバソレハ三項ノ適用ハナイ、併ナガラ取引ガ停止サレテ居、テモ諸般ノ方法ニ依ッテ財産ノ評價ガ出來、茲ニ債務超過ト云フ現象ガ現レ、其財産ノ價格ノ減少シタ所以ハ震災ニ因ラザルモノデアル、斯ウ云フコトニナッテ初メテ三項ガ働タコトニナルノデアリマス、別段非常ナ問題ヲ起スコトモアリマセヌ

○指田委員長 モウ一ツ御尋致シマス、直接震災ノ原因デ債務超過ニナッテ場合ト、評價スベキ時價ヲ定ムベキ取引機關ガ其機能ヲ發揮シナイ、之ヲ例デ申シマスレバ此間ノ震災ノ場合ニ東京ノ株式取引所ガ燒ケテ大阪ノ株式取引所ガ賣買ヲ開始シテ居、而シテ大阪ノ市場デハ東京ノ市場ノ震災ニ因ル經濟的影響ヲ重大ニ見テ、ドノ位デアリマシタカ、東京ノ有價證券ノ市價ヲ代表スベキ代表ノ株券ノ値ハ半額位デアリマシタ、其後東京ノ市場ガ開始サレルト共ニ、追々回復シテ今日デハ殆ド原狀ニ復シテ居ル、斯ウ云フコトニナル、ソコデ私ノ考ヘルニハ、今ノ有價證券ノ評價ヲ、取引市場ノ市價ヲ先ツ客觀的ノ標準トシナケレバナラヌト云フナラバ、其市價其モノガ直ニ「バランスシート」ノ上ニ現レル、即チ其市價ト債務ト比較シテ債務ガ超過スルカ否カヲ決定スルノデアルカラ、其市價ノ變動ガ震災ノ影響ニ因ッテ場合モ、即チ此中ニ含ムカ含マナイカト云フ疑ニナッテ來ルノデアリマス、若シ市價決定スルモノナラバ其市價ノ變動ト云フコトガ直ニ債務ヲ超過スルヤ否ヤト云フ問題ニナッテ來マスカラ、市價ガ變動シタト云フコトガ、震災ノ影響デ東京ハ燒ケテ大阪デ立タ値段ガ即チ震災ノ影響ト見ラレルカドウカラ決メテ置キマセヌト非常ナ疑ガ起ルト思ヒマス

○山内政府委員 只今ノヤウナ御話ノ下ニ今日例ヘバ破産事件ガ起ッタトスレバ、其時價ノ評價、殊ニ實際ニ合ハザル場合、其場合ニ即チ眞ノ時價ヲ現ハサマル市價ガ出來タ時ニ、矢張債務超過ノ標準ニシテ採ルカト云フ御質問トシマス、實際ノ

事實、時價ヲ現ハサマル市價ハ之ヲ以テ其勅令適用ノ標準トスル譯ニ行クマイト思ヒマス

○指田委員長 ソレダケハハッキリシテ置ケバ宜イデセウ、モウ外ニ質問ハアリマセヌカ

○山邊委員 私ハ缺席シテ居リマシタカラ、既ニ御質問ガアッタカ知リマセヌガ、大正十四年八月三十一日、二箇年間ノ年限ヲ決メラレタノハドウ云フ根據ニ依ッテ決メタノデアリマセウカ、私共ハ少クトモ三年間位ハ必要ト思ヒマス

○山内政府委員 是ハ起案ノ時ノ考デハ凡ソ二箇年シタナラバソレデ大體舊狀ニ達スルノデナイカト云フ目安デアッタノデアリマス、唯々見込デアリマシテ、三年デ済ムカ四年デ済ムカ、三年以前ニ回復スルカ、ソレニ付テ斯ウ云フ際ニ正確ナ算定ヲスルコトハ頗ル困難デアリマス、而モ之ヲ無期限ノヤウニシテ、法規ヲ立テルノハ甚ダマツイ事デアリマス、先ツ二年ガ適當デアラウト云フ、農商務當局、大藏當局、或ハ司法、法制局等ノ者ガ相寄ッテ、大體ノ見込ヲ以テ立テタノデアリマス、若シ其狀態ガ三年モ續クト云フヤウナコトニナッテ、而シテ債務ノ超過ノ爲ニ破産ノ宣告ヲスルト云フコトガ、公益ニ害ガアルト云フコトガ現レタト假定シタナラバ、其際ニ於テ何等カノ方法ヲ以テ之ニ應ズル手段ヲ執ルト云フコトハ當然ノ事デアラウト思ヒマス、之ヲ凡ソ二年トシタラ濟ミハシナイカ、單純ナ見積リデアリマス

○指田委員長 勅令四百七十五號ノ效力ヲ將來ニ存續シテドレダケ生活ノ安定ガ出來ルカ、是アルガ爲ニ却テ裁判上紛争ヲ惹起シハスマイカ、現在

ノ法人、殊ニ營利會社等ノ狀態ヲ考ヘテ見テモ、此勅令ヲ發布セラレタ當時ニ杞憂セラレタ如キ事情ハ段々緩和サレテ來テ居ルヤウニ思ヒマス、此勅令ガ存シテ居ラヌ爲ニ破産事件ガ非常ニ頻發スルトハ考ヘラレヌ、又先刻ノ御説明ニ依レバ、有價證券ノ價格若クハ公定市場ノ市價ノ如キ、震災當時ノ一時的影響デアルカラ、何レデモ評價ガ出來ルト云フヤウナ狀態デアルトスルト、此勅令ガナクとも、寧ろ無イ方ガ紛議ガ起ラヌデハナイカト云フ感ジガシマスガ、災害後ノ模様等ニ付テ私共ノ見テ居ル所ト、當局ノ方モ十分見テ居ラレマセウガ、私共ハ破産ノ問題ダケニ付テ此勅令ガソレ程將來ニ於テ效果ヲ發揮スルモノト考ヘラレヌノデアリマスガ

○山内政府委員 破産等ノ事、支勢停止等ノ事ニ付テハ、必ズシモ法規ヲ以テ律スルノ必要ハアルマイト云フノガ、司法當局ノ大體ノ腹デアッタ、故ニ此破産問題ニ牽聯シテ諸般ノ法規ノ提案ガアッタノデスガ、是ダケヲ殘シテ他ヲ打切ッタノハ、裁判所ノ常識常識ニ依テ適當ナル解釋ヲスルガ宜イ、震災氣分ニ於テ諸般ノ立法ヲスルノハ却テ弊害ガアルト云フ考ヲ以テ、只今委員長ノ御話ニナタ御考ト同様デアリマス、併シ此債務超過ノ爲ニスル破産宣告ハ、若シ會社ノ重役ガ其申告ヲシナケレバ罰則ガアツテ科料ニ處セラレル、此義務アル申告ヲ定メテ置カナケレバナラヌ、ソレガ主ナル問題デアリマス、而シテ破産ノ申請ヲナス事ニ付テ、震災ニ乗ジテ不退ナル債權者ト云フト語弊ガアリマスガ、良クナイ債權者ガ財産ノ價值ガ俄ニ

下シタト云フコトニ指ヲ取ツテ、破産ノ申請ヲスル者ガ簾出スルコトハナイカト云フ虞レガアルカラ、其他ノ問題ハ一時的ノ事柄デアルカラ、他日回復スルダラウト云フ考デ、或ハ財産目録ノ調製ニ於テ多少實際ト合ハヌヤウナ事ガアル、サウ云フ場合ニ之ヲ科料ニ處スルト云フヤウナ事柄ハ、是ハ裁判所デ罰シナケレバ宜イヤウナモノデアルガ、ドウモ私人ノ債務擁護ハ出來ナイト云フ事ニ依ツテ、強キ意味ヲ以テヤルヤウナ事ハ阻止シテ置カナケレバナラヌ、是モ無意味ナ問題デ、無用ナモノデアツテ、アレバ却テ宜クナイト云フ事情ガ現レタナラバ、或ハ斯ノ如キ立法ノ存スルノハ經濟界ニ害ガアルト云フコトノアッタ時、イツデモ廢止シテ差支ナイデアラウ、併ナガラ此立法ハ只今ノ所ニ於テハ、何等害ヲ生ジテ居ラヌト思ヒマス

○指田委員長 ソレデハ質問ハ終了トシテ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ〕

○指田委員長 質問ハ終了致シマシタ、討論ニ移リマス

〔「討論省略」賛成々々ト呼フ者アリ〕

○指田委員長 政府委員ノ只今ノ辯明ヲ諒トシテ兩案共承諾ヲ與ヘルコトニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○指田委員長 ソレデハ是デ散會致シマス
午後零時十一分散會